

2020 年度事業 進捗報告書（資金分配団体）

- 提出日：2022年 11月 5日
- 事業名：困難を抱える子ども若者の孤立解消と育成
- 資金分配団体：一般財団法人ちくご川コミュニティ財団

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成 時期	現在の指標の達成状況	進捗 状況 *
1-1. 卒業生に長期的で個別的なケアとサポートができています	①卒業生の来訪回数や相談回数。 ②在籍している子ども達の数と相談回数。	①卒業生が一度はNPOを訪れる機会がある。また、必要に応じて相談対応ができています。 ②スタッフの対応可能な範囲の数で子どもが在籍し、必要に応じて相談対応ができています	1-1. 2023年 10月	①卒業生登録数は36名でそのうち20名以上が来訪、毎回10名前後が来訪している。アルバイトの相談、大学進学希望が出るなど毎月数件の相談があり対応している。 ②在籍者数は84名で相談には個別対応しているが、家でのこと、学校でのこと、アルバイトのこと、恋愛のこと、進学のこと、それらにかかってくるお金のこと等多岐にわたっており、総じて親との関係が悪く、金銭的自立を求められバイトで学業がおろそかになる悪循環も見られる現状がある。	2

1-2. 在籍している子どもたちに個別的なケアとサポートができている	③子どものケアやサポートについての記録がされている	③個別のケース記録がされ、スタッフ間で情報共有ができている	1-2. 2003年4月	②個別ケースを記録しているが、一部記録共有が間に合っていない部分がある。	3
1-3. 居場所・相談場所を運営する人材が十分である	④居場所を運営する常勤教師・職員の雇用の安定、講師・ボランティア（プロボノ）の数	④常勤の教師・職員が施設のプログラムを統括運営し、子ども・卒業生の相談・来訪に組織的に対応できている。	1-3. 2022年10月	④常勤職員はぎりぎりであるが、応募も増え採用候補者が出てきている。 休眠預金活用事業を通じて、具体的な活動が明確化され、それをスタッフ全員で達成しようとして以前よりコミュニケーションが良くなり、チームワークが良くなった。又、各アウトプットについてある程度役割分担ができおり、アウトプットの産出につながっていると考ええる。	3
2-1. 学習支援の仕組みができている	①学力向上のためのプログラムができている。	①学習プログラムが確立し、継続的に運営されている	2-1. 2023年3月	①学習プログラム教材は導入しているが利用が万全とはいえない。担当者が事業全般業務で負荷がかかり対応できていないこと、子ども達を取り巻く状況が様々であり画一的な運用が難しいこと、学習に関して、スタッフ間及び子ども達に対しても、その取り組む方向性について明確な合意ができにくいこと（居場所か学習かの優先順位等）がある。ただ、スタッフ・講師を含め学力の向上についての改善策や提案も出てきているため、少しずつでも達成にむけて改善できると考える。	3

2-2. 体験プログラムの仕組みができています	②非認知能力を向上するプログラムができています。	②体験プログラムが確立し、継続的に運営されている	2-2. 2023年3月	②体験プログラムの計画実施ができています。内容は、デジタル絵画・パステル絵画・職業体験・料理コンテスト・スポーツ・野球観戦・芋ほり・子ども会議等。主に卒業生担当スタッフが、プログラム各項目と月1回の実施等のスケジュールリングを行い、あわせて行政や連携の団体個人の協力、及び予算があることで計画通りに実施できている。	2
2-3. 進路などについての支援ができています	③進路についての相談対応回数、相談内容の記録	③在籍する全ての子どもに対して相談対応ができており、その内容が記録されている	2-3. 2023年10月	③子ども達の進路を含む相談全般につき専門で相談対応にあたるスタッフが配置されており、それを取り巻く他スタッフが、ケースに応じて協力する体制になっている。これにより個別進路指導ができ、ほぼ全員が高校進学できている。進学22名（公立5、私立15、通信2）。	2
3-1. ファンドレイジングの仕組みを強化する	①寄付者の数や寄付額、マンスリーサポーター数、クラウドファンディングの成功数と資金調達額、助成金・補助金の採択数と金額、収益事業の収益額	①寄付、助成金等の既存の収入源の増額と新たな収入源を獲得できている	3-1. 2023年3月	①寄付金収入は順調であり、講演等による広報により新たな収入も獲得している。また、遺贈寄付も1件あった。単発の食糧支援助成金の獲得もできている（むすびえ175万円、キューピー20万円）。ファンドレイジング第3弾企画。他収入は既存市委託金2件、CCFの他、休眠いるか748万円、むすびえ175万円、子ども食堂42万円等)	2

<p>4-1. 居場所となる仮みんかを整備する</p>	<p>1-1. ①施工完了の確認 ②関係者による感想による評価 ③使用実績</p>	<p>1-1. ① トイレ：浄化槽設置、水洗化 ② お風呂：簡易的な扉設置、床の改修 ③廊下：床板の張替え ④ 居間：南側の壁に明り取りの窓、薪ストーブの設置。 ⑤ 集い場：腐食した合板の壁などを取り除き、落ち着いたのある和の空間にする。</p>	<p>1-1. 2021年7月ごろ</p>	<p>1-1. ① 改修完了 ② 改修完了 ③ 改修完了 ④ 改修完了 ⑤ 改修完了</p> <p>一部、老朽化などにより追加補修が必要であったが、21年12月仮みんかの改修が完了した。</p>	<p>2</p>
<p>4-2. 居場所となるみんかをつくる</p>	<p>1-2. ① 設計に必要な情報の取りまとめ ② 設計計画と進捗管理シート</p>	<p>1-2. 旧民家を解体し、土地の排水対策を行ったうえで整地、建築を行う。</p>	<p>1-2 2024/3/1</p>	<p>1-2 旧民家の解体完了。</p> <p>① 現在、整地するための準備が整っている。設計士および大工との会議により、建築に向けた準備を行っている。</p> <p>② 設計チームにより、設計内容のまとめ、会議記録および工程管理表が作成されており、資料として保存されている。</p>	<p>2</p>

<p>4-3. みんか(仮みんか)が子ども若者の居場所として活用されている。</p>	<p>4-3. ① 滞在実績として、期間と人数の把握</p>	<p>4-3. 1名以上の滞在実績がある</p>	<p>4-3 2023/3/1</p>	<p>4-3 現時点では、2022年7月にオンラインにて面談した若者1名が、同年9月下旬に、みんかに体験滞在。なお、別紙1の通り、みんかには多くの人が訪れるようになっている。みんかを知ってもらう人が増えることで、みんかの存在を口コミしてくれる人も増えているものと考えている。</p>	<p>2</p>
<p>4-4. みんか対象者や関係者からの相談などを受けている。</p>	<p>4-4. ① 相談実績</p>	<p>4-4. 相談を受けた実績が確認できるよう、件数や内容について記録が残されている。</p>	<p>4-4. ～随時</p>	<p>4-4. ① 相談実績2件 別紙2 広報誌としてみんか通信を年4回発行していること、HPの開設、2022年7月には、みんか公式LINEを立上げ、若者が直接アクセスできる機会を構築した。資金分配団体、そだちの樹からのアドバイスにより、まずは、LINEよりもTwitterで、気軽に情報に触れられるようにするとよいとのことで、開設する。開設後2週間で90のフォロワー、ダイレクトメッセージ4名とつながる。</p>	<p>3</p>

<p>4-5. みんなに滞在する若者が自分と向き合う時間を持ち、様々な人や物事と出会う中で、得意なことや自分自身の存在価値に気づく環境ができています。</p>	<p>4-5. ① みんなに滞在した後、または巣立つ際にみんなでの生活や自身を振り返るアンケートを作る。 ② 滞在者に関わる人から意見を記録できるシートを作成。 滞在者アンケート 滞在者の客観的評価 (記述式)</p>	<p>4-5. 短期長期に関わらず、みんなに滞在した若者が、自分自身を見つめなおす時間を持つことができ、今後の生活に希望を見出していることが確認できる。連絡先などを把握し、その後のフォローができる関係が構築できている。将来の目標設定をして巣立っていく。</p>	<p>4-5. ～随時</p>	<p>4-5. 別紙 3「滞在者アンケート」を作成し、みんなに滞在したことで心境の変化やみんなでの生活について評価できるようにしている。</p>	<p>3</p>
<p>5-1.みんなに滞在する若者と地域行事への参加、地域の人的課題による活動（道路愛護、美化活動、空き地の維持、景観保全活動など）や農作業支援などに積極的に取り組んでいる。</p>	<p>① 地域行事への参加実績報告 ② 地域貢献事業実績報告 ③ 地区住民からの意見、反応</p>	<p>① 参加記録シートを作成 ② 活動内容の記録シートを作成 ③ 地区住民へのヒアリングシートを作成</p> <p>短期長期に関わらず、みんなに滞在した若者が、地域住民、外部からの訪問者などに関わりながら、地区の人に感謝される行動を自発的にできるようになる。</p>	<p>～2023/10</p>	<p>① 別紙 4 にて、地域活動に対する参加状況をまとめている。 地域行事・活動・高齢者支援・農地活用など、延べ 150 回以上に参加している。 滞在者がいれば、いつでも一緒に参加できるように環境を整えている。 ② 毎月の活動記録、関係人口の人数などを記録し、関係者と共有・保管している。 ③ 地域住民に対する「近隣地域住民ヒアリングシート」(別紙 5) を作成し、中間評価の時点で調査を実施、みんなに対する意見を収集・まとめを行っている。</p>	<p>3</p>

<p>6-1. みんなの事業を継続させるための人づくり、組織づくり、仕事づくりを行っている。</p>	<p>① 適格者の発掘と育成 ② 法人化検討会議の開催 ③ 収益事業の進捗</p>	<p>① 事業主体者 5 名、および中心的な協力者 10 名体制とする ② 協議内容をまとめた会議記録づくり、または法人化。 ② 財務状態を支える収益事業が運営されている</p>	<p>～2023/10</p>	<p>① 協力者にとどまっている。施設で働くというイメージではなく、一緒に暮らすという事業の特殊性から適格者との出会いは、なかなか難しいと感じている。理想的には、滞在する対象者の中から、将来のみんなを運営する人を育てることだと改めて感じている。Twitter 上にいる施設出身者には、自身が支援者になりたいと思っている若者も多く、今後のつながりの中で、みんなでの共同の可能性も模索していきたい。 ② 2022 年 4 月、一般社団法人として設立完了。定期面談と合わせて、法人化の検討を行い、無事に法人化。 ③ 継続して、収益事業の立ち上げと、運営を支える環境づくりを行っている。</p>	<p>3</p>
--	---	---	-----------------	---	----------

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
<p>1-1. 実行団体の内部に事業を企画・運営できる人材がいる</p> <p>1-2. 評価を担当できる人材がいる</p> <p>1-3. 団体の組織力が高い</p> <p>1-4. 実行団体の組織診断・評価が行われている</p> <p>1-5. 実行団体のガバナンス・コンプライアンス体制が整っている</p>	<p>①事業運営、人材育成、組織力向上に関する勉強会・研修会の実施回数と参加者数</p> <p>②事業運営、人材育成、組織力向上に関する個別相談や支援の回数</p> <p>③組織評価・組織診断についての勉強会・勉強会の実施回数と参加者数</p> <p>④非営利組織評価センターの評価を受けている</p> <p>⑤NPC ガイドを活用した組織診断が行われている</p>	<p>①事業運営、人材育成、組織力向上をテーマにした勉強会・研修会をそれぞれ年に1回以上実施する。また、それに実行団体のスタッフの過半数が参加する。</p> <p>②月次面談も含めて月に2回以上は事業運営、人材育成、組織力向上についての個別相談や支援を行う</p> <p>③組織評価・組織診断についての勉強会・研修会を年に1回以上実施する。また、それに実行団体のスタッフの過半数が参加する。</p> <p>④ベーシックガバナンス評価の認証を獲得している</p> <p>⑤組織診断が実施され、課題解決の計画が立てられている。</p>	<p>1-1. 2023/9</p> <p>1-2. 2022/10</p> <p>1-3. 2023/12</p> <p>1-4. 2023/3</p> <p>1-5. 2023/3</p>	<p>①2022 年度上期に事業運営に関連してファンドレイジングの勉強会（4/27 ふるさと納税による NPO 等支援制度、9/21 遺贈寄付、10/21 クラウドファンディング）を3回、遺贈寄付ウィークに合わせ遺贈寄付ワークショップを9/4に開催した。</p> <p>②両実行団体に対して月に2回以上個別相談や支援を実施している。</p> <p>③わたしと僕の夢に対しては2023年1月以降に弊財団による組織診断の実施を検討している。それに向けて勉強会を企画予定。</p> <p>④わたしと僕の夢は認定NPOを2022年5月31日に取得したため、ガバナンス・コンプライアンスはより改善している。ベーシックガバナンス評価については認定を取得したこともあり、検討中。</p> <p>⑤上述の通り、わたしと僕の夢が組織診断を予定している。</p>	<p>2</p>

				みんなの家みんかは 2022 年 4 月の一般社団法人化後の法人運営について、事務局人材の確保、情報公開、規定類の運用状況の確認と改善などの伴走支援を実施している。	
2-1. ステークホルダーと課題の共有などができる場が定期的に設けられている	①実行団体の事業についての関係者分析が行われ、図に表されている	①関係図を作成し、詳細な関係者分析ができています	2-1. 2023/12	①両実行団体の関係図を更新し新たなステークホルダーが出てきていることを確認できた(別紙6)。各ステークホルダーと課題やロジックモデル等を共有し、更なる関係性の強化を図っていく必要あり。 ②2022年4月以降、実行団体が主催する会議は実施されていないが、各種イベント、講演会等を実施している。わたしと僕の夢：7/23「地域に子育てサポーターを増やそう」、9/23「九州子どもフォーラム」、10/3「鳥栖市ちょこっとカフェ」、10/14「小泉武夫チャリティー講演会」等で事業説明を実施した。 みんなの家みんか：10/11本みんか建設に向けたワークショップを開催。 ③弊財団の企画広報部長であるPOが月次面談の際に随時、広報についての相談を受けている。みんなの家みんかについては弊財団のアドバイスのもと、公式LINE、Twitterの運用を新たに開始し、対象者への直接的な情報発信ができるようになっている。	2
2-2. 事業に関係する多様なステークホルダーの分析ができている	②実行団体が主催するステークホルダーとの会議等の実施回数と参加者数	②実行団体が主体となって年に1回以上会議を実施できるようになる	2-2. 2022/11		
2-3. メディアやSNS、広報誌などを活用した広報の方法が確立している	③広報に関する個別相談や支援の回数	③両団体に対して月に1回以上、個別相談や支援を実施する	2-3. 2023/9		
2-4. 実行団体に広報担当の人材がいる	④団体内に広報担当者が1人以上いる	④広報担当者の能力強化が図られ、一人でも団体の広報を担えるようになっている。	2-4. 2022/12		

				④わたしと僕の夢では SNS を中心に担当を決めて広報を実施している。みんなでは代表者が兼務している状態。	
3-1. 実行団体が安定した寄付収入や助成金等を獲得している 3-2. 実行団体が収益事業を行い、寄付以外の収入を得ている 3-3. 実行団体にファンドレイジング担当の人材がいる	①ファンドレイジングに関する個別相談や支援の回数 ②クラウドファンディングの達成回数 ③必要に応じて助成金等が獲得できている ④収益事業にて補完的な収入がある	①両団体に対して月に1回以上、個別相談や支援を実施する ②実行団体が年に1回以上クラウドファンディングを達成する ③実行団体が年に1回以上助成金等を獲得できている ④収益事業にて補完的な収入を得ている	3-1. 2023/12 3-2. 2023/12 3-3. 2023/4	①両団体に対して月次面談の際に適宜、個別相談や支援を実施している。 ②わたしと僕の夢が 2022 年 11～12 月に教室拡充に伴うクラウドファンディングを実施予定。みんなの家みんなについては本みんな建設に関わりクラウドファンディングを検討する余地がある。 ③わたしと僕の夢は、食糧支援助成金（むすびえ 175 万円、キューピー 20 万円）、他の休眠預金活用事業 748 万円などを獲得できている。みんなの家みんなは本みんな建設に関わる助成金に 1 件採択（55 万円）されている。 ④みんなの家みんなでは複数の事業の種ができており、収益化の見込みがある。しかし、具体的な収益についての数字は明らかではないため、今後、詳細な分析が必要である。	2

<p>4-1. 筑後川関係地域において、休眠預金等活用事業や本事業について知っている人が増える</p> <p>4-2. 本事業についてメディア等に取り上げられている</p> <p>4-3. 多様なステークホルダーが本事業について知る機会が設けられている</p>	<p>①休眠預金活用事業や本事業についての説明会等の回数と参加者数</p> <p>②マスメディア関係者とのコミュニケーション回数</p> <p>③事業に関連したサロン(オープンな勉強会)の回数と参加者数</p>	<p>①当財団が主催する事業についての説明会等を年に2回以上実施する</p> <p>②イベントなどの実施時には必ずマスメディア関係者に連絡を取り、取材依頼等を行っている。</p> <p>③月に1回以上のサロンの開催と一般の参加者数の増加</p>	<p>4-1. 2023/12</p> <p>4-2. 2023/9</p> <p>4-3. 2023/9</p>	<p>①2022年4月以降、説明会等は実施できていない。2023年3月に年次報告会を実施予定であり、事業についての認知度を更に高めていく。</p> <p>②弊財団の外部審査委員会にメディア関係者に就任してもらい、関係性を深めている。</p> <p>③月次勉強会を2022年4月より5回実施し、休眠預金活用事業、本事業についての紹介を行っている。</p>	<p>2</p>
<p>5-1. 定期的に多様なステークホルダーが集まり、地域課題や事業の課題などについて共有する場が設けられている</p> <p>5-2. 多様なステークホルダーがお互いを知るためのネットワークの場が設けら</p>	<p>①本事業の関係者分析を行い、図に表されている</p> <p>②地域円卓会議の実施回数</p> <p>③Facebookグループの運営状況</p>	<p>①関係図が作成され、各関係者の詳細な分析も行われている</p> <p>②地域円卓会議を年に1回以上開催する</p> <p>③Facebookグループを作成し、継続的な運営ができている</p>	<p>5-1. 2024/1</p> <p>5-2. 2024/1</p> <p>5-3. 2023/3</p>	<p>①弊財団の事業についての関係図を更新し新たなステークホルダーが出てきていることを確認できた(別紙6)。各ステークホルダーと課題やロジックモデル等を共有し、更なる関係性の強化を図っていく必要あり。</p> <p>②2022年5月に災害対応についての地域円卓会議を実施。地域円卓会議の実施のノウハウを蓄積することができたため、本事業においても実施を検討していく。</p>	<p>2</p>

<p>れている</p> <p>5-3. 本事業についての情報共有や意見交換ができるコミュニティ（Facebookグループ）ができてい</p>				<p>③関係者が SNS 上で自由に意見交換や情報共有ができる場を作るために Facebook グループの企画をしている段階である。テーマ（例えば、「困難を抱える子ども若者の支援」など）を設定したコミュニティを作ることによって事業終了後も継続的に交流ができる場にしたいと考えています。</p>	
<p>6-1. 当財団の組織診断・評価の結果に基づき、当財団の組織基盤強化についての計画が立案され、実行されている</p> <p>6-2. 事業を企画・運営できるプログラムオフィサー（PO）が確保・育成されている</p> <p>6-3. 当財団の財政基盤が強化されている</p>	<p>①当財団の組織診断・評価が行われ、組織課題が明らかになっている</p> <p>②PO が 2 人以上在籍し、個々の能力強化が図られている</p> <p>③当財団のファンドレイジング計画を立案し、実行している</p>	<p>①当財団の組織診断・評価が行われ、組織課題が明らかになっている</p> <p>②IIHOE の支援力アセスメントシートを参考に、PO 個人の能力をアセスメントし、初期値よりも改善している</p> <p>③ファンドレイジングについての計画を立案し、実行している</p>	<p>6-1. 2022/9</p> <p>6-2. 2023/9</p> <p>6-3. 2023/9</p>	<p>①2021 年 11 月の非営利組織評価センターのグッドガバナンス認証の評価を受け、27 項目中 2 項目（職員の労働条件・職場環境について、会計処理）が基準を満たしていなかったが、その後改善に努めた。その結果を報告し、本年 11 月 1 日の審査会にてグッドガバナンス認証を取得した（11 月 24 日公表予定）。</p> <p>②PO 3 名、PO 補佐 1 名在籍しており、ジャンピアの研修会や実際の伴走支援などを通して能力強化を図っている。個々の能力に合わせた役割分担（事業統括、広報、ファンドレイジング、事業運営、評価など）もできてきている。また PO 補佐が日々の記録や評価についての業務実施することにより、PO の負担軽減に繋がっている。PO 個々の能力をどのように測るかについては引き続き、検討中。</p>	<p>2</p>

			<p>③企画広報部長を配置し、ニュースレターの定期発行などを実施した結果、弊財団の令和3年度（2021.8~2022.7）の寄付金が前年度比の3.4倍となり、確実に団体のファンドレイジングの能力が向上している。</p> <p>また、POの1人が11月に准認定ファンドレイザー試験を受ける予定。資格を取得できれば、准認定ファンドレイザーが2名体制となる。コングラントを導入しファンドレイジングについての整備を進めている。本年12月からクラウドファンディングを実施予定。</p>
--	--	--	---

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目
<input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> ・月次面談等をオンラインにて実施した。 ・実行団体訪問時には検温や体調チェックなどを行った。 ・感染予防のためのパーテーションを使用している。 ・労務環境を整え、役職員の体調管理に努めた。
6. 実行団体の進捗に関する報告

わたしと僕の夢：新規で職員2名雇用予定であるが、対象となる子どもは更に増えており現場スタッフの負担が多い状況は続いている。また、団体の将来も考慮し若手職員の雇用を希望しているが、難しい状況である。

みんなの家みんな：事業対象である若者2名の受け入れができたが、更に受け入れ数を増やし団体としての経験を積んでいく必要がある。また、事業を支える事務局の人材確保と定着に課題がある。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

2.広報制作物等

・財団ニューズレター第3号（4月20日付）、第4号（8月20日付）を各300部発行。休眠預金活用事業について紹介。支援者、連携団体、行政等に郵送した。

3.報告書等

4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

9月4日「遺贈寄付ワークショップ」

国際遺贈寄付の日(9月13日)にちなんだ国内の啓発キャンペーン「遺贈寄付ウィーク」に関連して開催。会場とオンラインで約20名参加。実行団体「わたしと僕の夢」にも事例紹介として登壇いただいた。

2020 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価の統括	宮原 信孝	ちくご川コミュニティ財団/理事長/プログラムオフィサー
	評価の設計、調査の実施、実行団体支援	庄田 清人	ちくご川コミュニティ財団/理事/プログラムオフィサー
	調査の実施	柳田 あかね	ちくご川コミュニティ財団/理事/プログラムオフィサー
外部	評価についてのアドバイス	伊佐 淳	久留米大学 経済学部 教授
	評価についてのアドバイス	中村寛樹	東京大学 社会学研究所 准教授

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
直接的対象者である子ども(わたしと僕の夢)	①子ども各々の状況を総合的に把握し、組織的に子どもの課題に相談対応などできている。	①個々の子どもの状況を把握し、講師・職員とともに組織的に対応し、個々の子どもの状況に合わせた相談対応などができるようになる。また、卒業生の来訪に組織的に対応できるようになる	2024/3	高校生の日の設定により、単なる居場所機能から、個別の進学や生活相談がでてくるようになってきており、専門相談員が対応している。アルバイトの相談、大学進学の希望が出るなど毎月数件の相談が起きている。卒業生登録数は36名でそのうち20名以上が来訪、毎回10名前後が来訪している。卒業生以外の在籍者数は84名で相談には個別対応しているが、家でのこと、学校でのこと、アルバイトのこと、恋愛のこと、進学のこと、それらにかかってくるお金のこと等多岐にわたっており内部、総じて親との関係が悪く、金銭的自立を求められバイトで学業がおろそかになる悪循環も見られる現状がある。
直接的対象者である子ども(わたしと僕の夢)	②子どものQOLに関するアンケート(KINDLなど)やヒアリングの結果	②事前評価時よりも調査結果が改善している。KINDLにて健康群と同程度の結果となる。	2024/3	2022年9月に「子どものQOL(身体的健康、精神的健康、自尊感情、家庭、友だち、学校生活)」に関わるアンケートを実施(別紙7)し、2021年5月実施分と結果の比較をした。 学校生活に関する質問項目「学校に行くことができるか?」において、中学生では「ほぼ毎日休んでいる」と回答した子どもはいなくなり(前回は15名中2名)、「週に1~2日休むことがある」と回答した割合は26.7%(15名中4名)から25%(20名中5名)に低下した。また、「学校は楽しいか」の質問に対して、「楽しくない」と回答した割合は小学生で20%から33%に増加、中学生で26.7%から15%に低下、高校生で16.7%から17.6%であった。中学生で大きく割合が低下した一方

			<p>で小学生、高校生は増加した。</p> <p>「学校で困ったことがあったら、書いてください」の質問に対して、中学生では回答した割合が60%（15名中9名）から20%（20名中4名）に大きく低下し、学校での生活が改善している可能性が考えられる。</p> <p>次に、自尊感情、精神的健康に関連する質問「自分が好きか」において、「あてはまらない」と答えた割合は、中学生で66.6%から55%に低下、小学生では0%から88.9%、高校生は58.3%から76.5%と増加した。</p> <p>NPO（わたしと僕の夢）に関する質問「よく通うことができますか？」の質問では、「あてはまる」と回答したのは中学生で95%（20名中19名）、小学生5名（83.3%）、高校生9名（64.2%）であった。よく通えている理由に「友達」と回答した子どもが最も多く、わたしと僕の夢において友達との関係ができることは非常に重要と考えられる。</p> <p>全体を通して、QOLに関わるアンケート項目について、中学生では明らかな改善が見られるが、小学生、高校生では低下した項目がある。</p> <p>わたしと僕の夢に在籍する子どもは中学生が最も多く、よく通うことができる割合も中学生で非常に高いこと、その層でQOLの結果が改善していることを考えると支援の有効性が示唆される。小学生については調査数が少なく、今回の結果だけで支援の有効性について判断することは難しいが、子どもの状況に何らかの変化が出ている可能性は高い。日々のケアやサポートの現場において状態の観察を行い、定性的な評価も合わせて必要と考える。</p> <p>高校生では、前回調査時が高校入学直後ということもあり、課題が潜在化していなかったことも考えられる。また、わたしと僕の夢に「よく通うことができている」割合が64.2%と中学生（95%）に比べ低いこと</p>
--	--	--	---

				<p>を考えると、NPO までのアクセスを改善することで QOL が向上する可能性が高いと考える。実際に高校生の回答に「塾 (NPO) までの距離が遠い」という声が挙がっていた。</p> <p>上記の通り、学年別で結果の違いが出ており、それぞれの状況に応じた支援の必要性があると考えられる。</p>
直接的対象者である子ども (わたしと僕の夢)	① 子どもの QOL に関するアンケートの非認知能力に関わる結果が改善しているか	①事前評価時よりも調査結果が改善している。	2024/3	<p>非認知能力の一つである「自己肯定感」については、上述の通り「自分が好きか」の質問について中学生では向上が見られた。また、「探究心」に関連して「勉強が好きか」の質問に対して「あてはまる」と答えたのは、中学生が 30% (20 名中 6 名)、小学生が 22.2% (9 名中 2 名)、高校生が 17.6% (17 名中 3 名) とここでも中学生の割合が最も高かった。前回調査時に「勉強が好きか」については調べていないため割合で変化を見ることは難しいが、「前回のアンケートの時と比べて、自分自身が何か変化したことがありますか」の質問に対して、「勉強を頑張っている」、「勉強を真面目に集中できている」などの回答があり、探究心の向上が窺える。</p>

直接的対象者である子ども（わたしと僕の夢）	②学力テストの点数、進学状況、就職状況	②学力テストの結果が改善している。それぞれの子どもの希望にあった進学や就職をできている。	2024/3	高校進学についてはほぼ進学できているが、進学可能な高校という選択が多く、入学後大学進学に興味が出てくる子もいるが、中学時代からより適切な学習指導が出来ればその夢の挑戦もより可能性がでてくるので、ワンランク上への進学を目指せる指導体制と学力の向上を図りたい。
実行団体（わたしと僕の夢）	①安定的な資金調達ができているか（財務状況の確認）。	①ファンドレイジングの仕組みが確立し、団体の経済的自立が達成されている。	2024/3	2021年度の2回のクラウドファンディングは目標金額が達成されたが、2022年度には1回のクラウドファンディングに挑戦予定である。安定的な寄付金は継続している。代表を中心とした講演やチャリティイベントが増加している。
実行団体（わたしと僕の夢）	②事業運営に必要な人材が充足しているか。	②事業運営、子どもたちのケア・サポートに関わる人材が充足している。	2024/3	ハローワークや民間求人募集掲載により、応募や問い合わせが来ており、随時面接等行っているが、採用決定までは至っていない。
直接的対象者である若者（みんなの家みんなか）	①滞在者アンケート（記述式） ②滞在者の客観的評価（記述式）	短期長期に関わらず、みんなに滞在した若者が、自分自身を見つめなおし、将来の目標設定ができるようになっている。	2024年3月まで	みんなか通信、HPなどを使って、関係者への情報提供を行っているが、具体的な対象者との接点が難しい。すでに、夜回りされている方との同行で、勉強させていただくことも検討している。新しい試みとして、LINEやTwitterアカウントを作成し、みんなに関する情報を発信し始めた。Twitter上には、対象者となる子が、なやんだり、している状況を素直に投稿していたり、彼らが支援者になろうとしているなど、みんなに関わる素養のある若者がいるように感じている。物理的な環境などの問題もあるが、Twitter上での出会いは、今までにない直接的な関わりになると感じている。 また、評価関係者との意見交換においても、既存の支援者との関係性を大事にし、信頼関係の上での紹介につなげることが望ましいとの意

			<p>見をいただく。他にはない取り組みであることから、他への波及効果が生まれるよう、焦らず、じっくりと取り組んでほしいと期待されている。</p> <p>2022年9月22日より、東京から22歳の女性が一カ月の体験滞在中で、みんかへ来訪。滞在アンケート結果から、みんかに来てよかった、他の人へ紹介したい、という住環境としては評価を得た一方、自身の東京での生活や精神的な面の違いにおいて、ギャップを感じていた。経済的な課題を解決したいという思いから、お金を稼げる環境として東京に戻ることになった。しかし、この滞在中に、みんかや私たちのことを知るといふ人間関係は構築できたと感じており、対象者にとって、「ただいま」と言える場所に近づけたのではないかと考えている。</p> <p>なお、Twitterを通して、10月30日から1週間の体験滞在希望の連絡があり、受け入れの予定。</p>
<p>実行団体、事業対象地域である朝倉市黒川地区（みんなの家みんか）</p>	<p>地区住民への地域貢献についてのヒアリング・アンケート</p>	<p>ヒアリングシートやアンケートにて地域への貢献が示されている</p>	<p>現時点において滞在した若者が少ないこともあり、直接的な評価はできないが、近隣住民へのアンケートにより、少なからず、若者がくることへの期待感を示していることを確認した。</p> <p>最も多い意見は、どんな子が来るかわからないので、何とも言えないという回答だったが、否定する意見はなかった。しかし、みんかに滞在する子が、問題を起こさないかどうかという不安を挙げる人もいることは確かで、この点については管理責任および地域住民とのコミュニケーションを大切にすることでカバーしていきたいと考える。</p>

<p>実行団体（みんなの家みんな）</p>	<p>① 事業に参加するメンバーの増員 法人化</p>	<p>① みんな事業に関わる人との交流および対話が行われている。また、みんなの対象となる若者との関りにおいて、みんなの担い手となりうる若者が見出される。 法人化に向けた検討結果報告書作成または法人化の実現。</p>	<p>現在、みんなの実質的な運営は、師岡夫婦で行っている。みんなの事業に関わる協力者は、 作業系：ボランティア 広報系：関連支援団体、知人などがおり、事業に共感してくれている。 みんな事業がスタートしたことで、高木・黒川地区の関係人口は3,500人を超えており、地区内外の人との交流が発生していることは示されている。 その中で、なにかあるときに、手伝ってくれる人はいるが、常に意識の中に入れながら、能動的に行動してくれる人はなかなかおらず、運営スタッフを確保するには、財源や予算を見直し、パートタイム的な仕事として関わる人を入れることも検討する必要性も感じている。 2022年4月一般社団法人化が完了。事務局人材の確保、情報公開、規定類の運用状況の確認と改善などの組織の基盤づくりを行っていく必要がある。</p>
<p>実行団体、事業対象地域である朝倉市黒川地区（みんなの家みんな）</p>	<p>地区住民への地域貢献についてのヒアリング・アンケート</p>	<p>ヒアリングシートやアンケートにて地域への貢献が示されている</p>	<p>現時点において滞在した若者が短期少数ということもあり、直接的な評価はできないが、近隣住民へのアンケートにより、少なからず、若者がくることへの期待感を示していることを確認した。 最も多い意見は、どんな子が来るかわからないので、何とも言えないという回答だったが、否定する意見はなかった。しかし、みんなに滞在する子が、問題を起ささないかどうかという不安を挙げる人もいることは確かで、この点については管理責任および地域住民とのコミュニケーションを大切にすることでカバーしていきたいと考える。</p>

【非資金的支援】

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
<p>1. 実行団体が社会から信頼される体制を整え、円滑な事業運営ができています (組織基盤強化)</p> <p>①事業の進捗が計画書(事業計画、評価計画)通りに進んでいる</p> <p>②非営利組織評価センターのベーシックガバナンス(グッドガバナンス)評価を取得している</p> <p>③組織診断の結果をもとに組織基盤強化の計画が実行されている</p>	<p>①事業計画、評価計画通りに事業を進めることができる</p> <p>②両団体ともベーシックガバナンス(グッドガバナンス)評価を取得している</p> <p>③組織診断がなされ組織基盤強化の計画が実行されている</p>	<p>2024/3</p>	<p>①わたしと僕の夢：実施予定の活動49項目のうち、「完了・ほぼ完了」したものが25項目あり、中間評価時点で達成率が半分を超えている。また、9つのアウトプットのうち、6つが計画通りに進捗しており、事業を計画通りに進めることができている(別紙8)。</p> <p>みんなの家みんな：実施予定の活動34項目のうち、「完了・ほぼ完了」したものが12項目、「実施中」が20項目、「未着手」が2項目であり、7つのアウトプットのうち、3つが計画通りに進捗している。居場所整備は予定通りだが、対象者の受け入れに遅れが出ているため、更なる伴走支援が必要である(別紙8)。</p> <p>②両実行団体とも評価を受けていない。わたしと僕の夢についてはベーシックガバナンス評価(グッドガバナンス認証)を受けることで更なる体制強化が図れると考える。みんなの家みんなについては一般社団法人化後の組織体制の整備に支援が必要である。</p> <p>③わたしと僕の夢は弊財団による組織診断を予定している(2023年1~3月)</p>
<p>2. 実行団体が自団体の事業について社会に向け発信し、多様なステークホルダーと連携・協働している (組織基盤強化)</p> <p>①多様なステークホルダー</p>	<p>①ステークホルダーの特性に応じたコミュニケーション手段を確立する</p> <p>②各団体で年間3</p>	<p>2024/3</p>	<p>①わたしと僕の夢：2021年9月以降、ニュースレターを毎月発行し、支援者に対して継続的に情報発信をしている。また、対外的なイベントにて事業説明等を実施し、新たな支援者の獲得に積極的に動いている。現在のコミュニケーション手段の効果などはファンドレイジング計画の立案を機会に分析していく必要がある。</p> <p>みんなの家みんな：公式ホームページ、Twitter、LINEの運用開始、みんな通</p>

<p>と定期的にコミュニケーションをとっている</p> <p>②マスメディア等で事業や活動について紹介された件数</p> <p>③実行団体の SNS フォロワー数や投稿数、投稿への「いいね」の数（投稿へのエンゲージメント数）</p>	<p>件以上マスメディア等に掲載される</p> <p>③Facebook ページフォロワー数 1000、SNS 上での投稿を週に 1 回以上行い、各投稿の「いいね」数 50 を目指す</p>	<p>信の発行により確実に情報発信の量が増加している。Twitter からは対象者の滞在につながる成果も出ている。対象者や社会的養護下にある若者の支援をしている団体に情報が届くように Twitter 等の運用について更に支援していく。</p> <p>②わたしと僕の夢：事業開始（2021 年 4 月）以降、久留米市広報 1 回、雑誌 2 回（女性自身、cocomi）、テレビ 1 回（RKB）、新聞 1 回（西日本新聞）の合計 5 回、メディアに紹介されている。</p> <p>みんなの家みんな：事業開始（2021 年 4 月）以降、テレビ 1 回（東峰テレビ）、新聞 1 回（筑後川新聞）の合計 2 回、メディアに紹介されている。</p> <p>③わたしと僕の夢：Facebook ページフォロワー数は 265 人、2 週間に 1 回のペースで投稿できている。各投稿の「いいね」数は 10～20 ほど。</p> <p>みんなの家みんな：Facebook ページフォロワー数は 423 人、1 ヶ月に 1 回ペースの投稿となっている。各投稿の「いいね」数は 10～20 ほど。</p>
--	---	--

<p>3.実行団体が団体運営に必要な資金調達を安定的にできるようになっている (組織基盤強化)</p> <p>①実行団体の財務状況が健全である</p> <p>②実行団体のファンドレイジング計画の策定状況と計画の進捗状況</p>	<p>①休眠預金活用事業による助成金がなくても、継続した事業運営ができる財務状況となっている</p> <p>②ファンドレイジング計画を立案し、予定通り実行できている</p>	<p>2024/3</p>	<p>①わたしと僕の夢：活動計算書より事業開始となった令和3年度(2021年度)の受取寄付金が前年度比の2.7倍となっており、休眠預金活用事業がきっかけとなり寄付金が非常に増えたと考えられる。現在のところ財務状況は良好であり、今年度は認定NPOを取得したことにより寄付金のさらなる増加も期待できる。本事業終了後に事業規模を維持、拡大、縮小するのかを踏まえて資金調達の方法を検討する必要がある。</p> <p>みんなの家みんな：現在、休眠預金活用事業のみの運営となっており、本事業運営については他の助成金を自己資金(合計484万円)として獲得し財務状況については良好である。終了後の事業継続のためには事業収益を主として資金調達する必要があり、現在の事業収益の分析から始める必要がある。両団体に対して財源、組織、事業の一体的発展戦略を策定できるように伴走支援を行う。</p> <p>②両実行団体ともまだファンドレイジング計画を策定できていないため、本事業終了後の出口戦略と合わせて各団体に合わせた計画を立案する(2023年3月)。</p>
---	--	---------------	---

<p>4. 筑後川関係地域を中心に、本事業について社会的に認知・理解されている (環境整備)</p> <p>①事業の認知度についての行政・企業・市民向けアンケートの結果</p> <p>②事業に関連した SNS 上の投稿数と投稿への反応の数</p>	<p>①筑後川関係地域における認知度を明らかにし、向上のための施策を実行する</p> <p>②SNS 上での投稿を週に 1 回以上行い、各投稿の「いいね」数 50 を目指す</p>	<p>2024/3</p>	<p>①事業開始から 2022 年 9 月時点までに、主催した 9 回のイベント等（公募説明会、キックオフミーティング、年次報告会※2021 年度事業含む）で休眠預金活用制度についての説明を実施。参加者への制度の認知度アンケートでは回答者 155 名の内、「良く知っていた（内容を把握している）」63 名（約 40%）、「言葉を聞いたことがあった」55 名（約 35%）、「全く知らなかった」37 名（約 23%）という結果であった。制度説明を実施したことにより「言葉を聞いたことがあった」、「全く知らなかった」の 118 名の認知度、理解度を高めることができたと考える。今後は勉強会開催時などにもアンケートを行い、調査数を更に増やすとともに制度説明の実施回数も増やしていく。</p> <p>②弊財団 Facebook にて 1～2 週間に 1 回の新規投稿ができており、今年度上期分の各投稿の「いいね」数の平均は 24 であった。また、昨年度上期（6 ヶ月間）の Facebook ページのリーチ数が 441 であったのに対し、今年度上期は 11,892 まで増加し、約 27 倍となっている。本事業を開始したことにより確実に多くの人々に情報発信できるようになっている。今後は Facebook の投稿を継続して実施するとともに他の SNS の運用開始（Twitter など）や公式ホームページのリニューアルを実施し、情報発信の質や量を更に向上していく。</p>
---	--	---------------	--

<p>5. 筑後川関係地域を中心に、当財団や実行団体が多様なステークホルダーと連携・協働できる環境が整っている (環境整備)</p> <p>①定期的に多様なステークホルダーが集まり、会議等が開催されている</p> <p>②ステークホルダーとのコミュニケーションの手段が確立している</p>	<p>①ステークホルダーが集まる会を年に2回以上実施できるようになっている。</p> <p>②ステークホルダーの特性に応じたコミュニケーション手段を確立する。</p>	<p>2024/3</p>	<p>①事業開始から2021年3月のキックオフミーティング、2022年3月の年次報告会の2回の会議帯を実施し、関係者約150名の参加があった。会議の実施により弊財団、実行団体が行政関係者(久留米市の子ども未来部の担当者など)、市議会議員、大学等の研究機関、他のCSOと新たな繋がりを作ることができた。</p> <p>②弊財団が2021年9月に支援者向けの活動報告書を1,500部作成、2021年10月より3ヶ月に1回の頻度で財団のニュースレター第1号~4号を合計1,700部発行、支援者に対して報告を行なっている。その結果、支援者とのコミュニケーションが取れるようになり、上述の通り弊財団の寄付額が前年度比の3.4倍まで増加したと考える。今後は紙媒体以外のコミュニケーション方法についても検討していく必要あり。</p>
<p>6. 筑後川関係地域において、当財団が市民活動団体の事業を十分に伴走支援できるようになっている (環境整備)</p> <p>①当財団の組織診断・評価がなされ、良好な結果が出ている</p> <p>②当財団の財務状況が健全である</p>	<p>①グッドガバナンス認証の取得、組織診断結果の改善</p> <p>②休眠預金等活用事業による助成金がなくとも、持続可能な事業運営ができる財務体制を整える</p>	<p>2024/3</p>	<p>①進捗報告書6-1に記載の通り、認証へのチャレンジを通して組織体制、労務環境等の整備に努め、本事業開始前に比べて確実にガバナンス・コンプライアンス体制が改善している。</p> <p>②前年度に比べ寄付金が増加し、新たな助成金(2021年度通常枠休眠預金活用事業)も獲得できたため、令和3年度(2021年8月1日~2022年7月31日)の正味財産期末残高は52,539,052円と前年度の30,911,045円から21,628,007円の増加となっている。そのため、現在の財務状況は良好と判断できるが、休眠預金活用事業終了後については事業規模を維持、拡大、縮小するのかを踏まえ出口戦略を考える必要がある。現在、PO3名、PO補1名の体制をとっていることで事業、組織が成長しているが、この雇用を継続するには寄付金収入を中心とした財源のさらなる成長が必要である。</p>



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>事業を通して最終的に達成したい短期アウトカムは達成される見通しがあるか。</p> <p>指標：中間評価時の指標の値が目標値の半分以上であり、アウトカム達成の見込みがあるか。アウトカムの発現に活動の何が有効であったか分析できているか。</p> <p>また、想定外の成果について把握ができているか（事業実施者自身の変化・成長など）。</p>	<p>【資金支援】</p> <p>短期アウトカム 1：目標値の半分以上を達成している。</p> <p>短期アウトカム 2：目標値の半分以上を達成している。</p> <p>短期アウトカム 3：目標値の半分以上を達成している。</p> <p>短期アウトカム 4：目標値の半分に到達できていない。</p> <p>短期アウトカム 5：目標値の半分に到達できていない。</p> <p>短期アウトカム 6：目標値の半分以上を達成している。</p> <p>【非資金的支援】</p> <p>短期アウトカム 1：目標値の半分以上を達成している。</p> <p>短期アウトカム 2：目標値の半分以上を達成している。</p> <p>短期アウトカム 3：目標値の半分以上を達成している。</p> <p>短期アウトカム 4：目標値の半分以上</p>	<p>【資金支援】</p> <p>短期アウトカム 1：高校生（卒業生）の日を設定するなどして、進学や生活の相談を専門相談員が個別で実施できている。教室の拡充により個別相談室を設ける予定であり、更に支援の質を改善できると考える。</p> <p>短期アウトカム 2：アンケート結果より中学生を中心に QOL、非認知能力の項目の改善が見られた。今後、小学生、高校生についても学年別の状況に合わせた支援を充実することにより更なる改善が期待できる。認知能力（学力など）の変化についても、在籍する子どものほぼ全てが高校に進学できており、改善している。学力テストの結果なども踏まえより詳細な分析ができるとさらに質の高い学習支援ができると考える。</p> <p>短期アウトカム 3：寄付金の増加（事業開始前の年度と比べ 2.7 倍）、新規職員の雇用により、確実に組織基盤強化が図られている。現場職員の負荷の軽減のために組織運営のあり方などは組織診断などを通して客観的に評価し、更なる改善を図る。</p> <p>短期アウトカム 4：直接的対象者である若者との接点づくりに苦慮しており、現在の滞在实际は 2 名だが、滞在者アンケートの結果から対象者にとって身体を休めることができる環境であること、新たに人とつながることができたことなどの成果が窺えた。今回の滞在によりソフト面、ハード面の両方の課題が明らかとなったため、一つずつ改善しながら滞在者を受け入れていく必要がある。公式 Twitter の運用から新規で若者から直接連絡があったりと接点づくりができ始めているため、伴走支援により更に強化していく必要あり。</p> <p>短期アウトカム 5：滞在した若者が 2 人であるため、まだ住民アンケートを实</p>

	<p>を達成している。</p> <p>短期アウトカム 5：目標値の半分以上を達成している。</p> <p>短期アウトカム 6：目標値の半分以上を達成している。</p>	<p>施できていないが、現時点でのみんなの家みんなについてのヒアリングを実施したところ、否定的な意見はなかった。まだ、事業についての地域住民の理解が進んでいないため、まずは対象者の受け入れ、そこからの住民との接点づくりをしていく必要がある。</p> <p>短期アウトカム 6：ボランティアとして関わってくれる人は増えたが、団体内部（事務局）の人材は定着ができていないため、要因を分析していく必要あり。予定よりも早く法人化（一般社団法人化）することができたため、法人としての組織体制を整えていく中で事務局機能を担うスタッフを確保していく必要あり。</p> <p>【非資金的支援】</p> <p>短期アウトカム 1：指標の設定がわたしとの僕の夢に寄った内容となっているため、みんなの家みんなの組織体制や事業運営について測れる指標の設定が必要と考える。</p> <p>短期アウトカム 2：両実行団体とも確実に発信の量が改善しているため、発信の効果についても分析していき、質を向上させる伴走支援が必要と考える。</p> <p>短期アウトカム 3：：両実行団体とも本事業を運営するための自己資金の調達には確実にできている。事業終了後の出口戦略を踏まえ、ファンドレイジング計画の策定が必要である。</p> <p>短期アウトカム 4：CCF の事業についての発信の量も増えているが、実行団体同様にその効果については十分に測れていないため、分析を行い質の改善を目指す。</p> <p>また、事業の認知度・理解度のアンケートについても対象範囲を広げ、より有効な調査を実施していく。その結果をもとに事業説明会等の活動を実施する。</p> <p>短期アウトカム 5：報告会の開催を中心にステークホルダーが集まる機会を創</p>
--	---	---

		<p>出できているため、その後のステップ（具体的な事業連携）について更に働きかけを行なっていく。</p> <p>短期アウトカム6：確実に組織体制、財務状況が改善しているが、本事業終了後の出口戦略を具体化できていないため、戦略を策定する必要あり。</p>
--	--	--



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>上述の通り、現時点で短期アウトカム達成の見込みがあり、一部指標は既に達成している。そのため、目標値を上回っての達成の見込みがあり、中間評価の結果を踏まえてより最適な指標・目標値の設定が必要と考える。</p> <p>また、両実行団体の特性が異なるため、それぞれに応じたオーダーメイドの非資金的支援になるよう事業計画の改善が必要と考える。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	(CCF の) 活動は計画どおりに進んでいるか。	非資金的支援の活動53個のうち、「完了」が1個、「計画通り実施中」が29個、「計画より遅れている」が16個、「未着手」が6個あり半分以上の活動を予定通り実施できている。	<p>計画している活動数が多いこともあり、22個の活動については「計画より遅れている」もしくは「未着手」の状態である。これまで事業運営をしてきた中で実行団体によっては優先度の低いものも含まれているため、非資金的支援についてのアンケート・ヒアリング結果も踏まえ、活動の取捨選択を行い、計画をスリム化・最適化する必要があると考える。</p> <p>わたしと僕の夢については、組織診断のニーズ、必要性が高いため、NPCガイド等に沿った組織診断を実施し、組織基盤強化の計画策定の支援を優先的に実施する必要がある。</p> <p>みんなの家みんなかについては、対象者である若者とつながる機会を増やしていく必要があるため、社会的養護下にある若者を支援している団体との関係構築の支援、直接的に若者とつながるためのSNS活用の支援に更に注力する必要がある。</p> <p>また、事業の中間地点となり両団体とも出口戦略について考える必要があるため、ファンドレイジング計画策定の支援も必要と考える。</p>
実施状況の適切性	実行団体による活動は計画通りに実施されているか。	非資金的支援1(24ページ)に記載の通り、概ね計画通りに実施されている。	<p>わたしと僕の夢については、「完了、ほぼ完了」以外の24項目についても計画通りに進んでいるものが12項目あり、順調に進んでいる。未着手の項目については残りの事業期間も考え取捨選択する必要がある。</p> <p>みんなの家みんなかについては、未着手の活動は2個のみであり、現在実施中の活動の中で対象者との接点作りに関わるものにより集中していくことが重要と考える。</p>

<p>実施状況の 適切性</p>	<p>アウトプットは計画どおり産出されたか。もしくは産出される見通しがあるか。</p>	<p>資金支援（実行団体）については非資金的支援1（24ページ）に記載の通り、概ね計画通りに算出されている。</p> <p>非資金的支援については、アウトプット21個のうち、「達成（計画通り産出中）」が15個、「計画より遅れている」が5個、「未着手」が1個であり、計画通りアウトプットを産出できている。</p>	<p>わたしと僕の夢は9つのアウトプットのうち、6つが計画通りに進捗しており、活動49項目中25項目が「完了、ほぼ完了」であることを踏まえると、「活動の実施」が「アウトプットの産出」にしっかりと繋がっていると考えられる。計画よりも遅れているとしているアウトプット「1-2. 在籍している子どもたちに個別的なケアとサポートができている」については、スタッフ間の情報共有の課題が挙げられているため、困難事例について特に情報共有を行うなどの工夫が必要と考える。「1-3. 居場所・相談場所を運営する人材が十分である」については、現在、新規に2名の職員を雇用予定であるため、改善が見込まれる。団体から若手人材のニーズが高いため、大学との連携（インターン生の活用）、JICA海外協力隊経験者の紹介など人材紹介の支援を強化する必要もある。「2-1. 学習支援の仕組みができている」では学習プログラムについては既に導入されているが、利用が進んでいるとは言えない状況のため、今回の子ども達へのアンケート結果も踏まえ、個別、宿題、受験の対応を強化するなど現状に合った学習支援の方法を考える必要があると考える。</p> <p>みんなの家みんかは実施予定の活動34項目のうち、「完了・ほぼ完了」したものが12項目、「実施中」が20項目、「未着手」が2項目であるが、7つのアウトプットのうち、計画通りに進捗しているは3つである。上述の通り、対象者である若者の受け入れに関わる項目に遅れが出ているため、まずはアウトプット「1-4. みんか対象者や関係者からの相談などを受けている。」の産出につながる活動の強化を行い、若者との接点づくりをしていく必要がある。その後、「1-5. みんかに滞在する若者が自分と向き合う時間を持ち、様々な人や物事と出会う中で、得意なことや自分自身の存在価値に気づく環境ができている。」、「2-1.みんかに滞在する若者と地域行事へ</p>
----------------------	---	---	--

			<p>の参加、地域の人的課題による活動（道路愛護、美化活動、空き地の維持、景観保全活動など）や農作業支援などに積極的に取り組んでいる。」につなげていく。また、事業に関わる内部のスタッフ（事務局スタッフ）の定着が難しく、アウトプット「3-1. みんなの事業を継続させるための人づくり、組織づくり、仕事づくりを行っている。」に遅れが出ているため、人材の紹介等の支援も必要と考える。</p> <p>非資金的支援のアウトプットについても中間評価時点で 21 個中 15 個が「達成（計画通り産出中）」であること、活動が計画通りに実施されていることを踏まえると「活動の実施」が「アウトプットの産出」に繋がっていると考えられる。「計画より遅れている」、「未着手」のものについても組織診断やファンドレイジング計画の策定に関わる活動を実施することで達成の見込みがある。</p>
組織基盤強化・環境整備	（CCF の）組織の財政状態・財務体質に変化は生まれているか。	非資金的支援 6（28 ページ）に記載の通り、財政状態に良好な変化が生まれている。	<p>寄付金の増加については、休眠預金活用事業を始めたことにより事業と組織が確実に成長し、そのことを企画広報部長の配置により、支援者等に積極的に発信したことが要因と考える。また、新たに 2021 年度休眠預金活用事業（通常枠）に採択されたのは 2020 年度事業の運営により、課題の分析から事業設計を組み立てるスキルを PO が蓄積し、より良い案件形成ができたためと考える。今後は事業・組織・財源の一体的発展戦略を図り、更なる財政状態の改善を目指す。その具体的な活動として CCF のファンドレイジング計画の策定も必要と考える。</p>
組織基盤強化・環境整備	（CCF の）事業の運営管理体制（進捗管理の仕組み、事業への人員体制、意思決	進捗報告書の非資金的支援 6（14～16 ページ）に記載の通り、事業の管理運営体制は	<p>事業の運営管理体制は PO 3 名、PO 補佐 1 名、会計担当者 1 名となったことにより役割分担をしながら事業を運営できるようになった。また、理事会の本事業への理解度、貢献度も非常に高く、組織全体で事業の管理運営にあたることができている。</p>

	定、過程の整理などに問題はないか。	確実に改善している。第三者評価については非営利組織評価センターのグッドガバナンス認証の審査の結果、同認証を取得した(22年11月1日、同24日公表予定)。	非営利組織評価センターによる第三者評価に応じて、職員の労働条件・職場環境について、会計処理について改善できた。2023年は公益財団化を目指して、具体的な活動を開始する。
組織基盤強化・環境整備	(CCF、実行団体が)ステークホルダーとの協力・連携関係はできているか。	非資金的支援5(27、28ページ)に記載の通り、ステークホルダーとの協力・連携関係はできてきている。	事業の関係図(別紙4)に示す通り、新たなステークホルダーは増えているが具体的な事業連携にまでは至っていないため、事業レベルでの関係性構築のための活動をしていく必要があると考える。 具体的には出口戦略に関連して久留米市でのふるさと納税によるNPO等支援制度のための働きかけが必要である。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・事前評価をしっかりと実施し、精度の高い事業計画の策定に努めたこと
- ・わたしと僕の夢が認定NPO取得のための他の助成金を早期に獲得できたこと
- ・資金分配団体、実行団体のそれぞれに伴走者がいること(適度なプレッシャーによる工程管理、壁打ちができる相談者の存在)

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・わたしと僕の夢の認定NPOの早期取得
- ・みんなの家みんかの早期法人化
- ・CCF、わたしと僕の夢の寄付金収入の大幅な増加

④ 事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する 	<p>中間評価の実施により、資金支援では短期アウトカムの指標・目標値を更に上位のものを設定できることや現在の計画で更に注力すべき活動が明らかになった。また、1年6ヶ月事業運営をしたことで各団体の特性が明らかになり、それに応じて非資金的支援の計画を更に改善できる見込みがある。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- ・資金支援の事業計画の指標・目標値のブラッシュアップ、アウトカム表現の解像度の向上
- ・オーダーメイドの非資金的支援の事業計画策定
- ・CCF、実行団体のファンドレイジング計画策定のための取り組み

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



子ども達がパステル画講座を受けている様子(わたしと僕の夢)



わたしと僕の夢の職員研修（子どもアドボカシー講座）



本みんか建設のための整備の様子（みんなの家みんか）



実行団体との面談の様子